愛から生まれる何か 大きな事(1)イエ スは私たちに先んじ て出迎えに来てくだ さる

第一回目は、「愛から生まれる何か大きな事」と題される「ですし出しの識別に関する問題を関する。 記事です。人生のために神がは、 お立てになった計画を発見するよう招かれています。 2018年10月の間、教皇フランシスコ の呼び掛けで、「若者、信仰、そし て召命の識別」をテーマにした世界 代表司教会議(シノドス)の通常総 会がローマで催されました。若者た ちにこのイベントを紹介する書簡 で、教皇様は最初の弟子たちの主イ エスとの出会いを思い出させてくだ さっています。弟子たちと同じよう に、「イエスは皆さんをご覧になっ て、ご自分に付いて来るように招い ておられます。親愛なる若者の皆さ ん、皆さんに向けられたイエスの眼 差しに気付いたことはありません か。その声を聴いたことはありませ んか。この旅を始めたいという気持 ちになったことはないのでしょう か。[1]

「騒音や困惑がこの世界に蔓延している今日、イエスとの個人的な出会いは難しくなることがあります。しかし、「一人ひとりが自ら心を完全な喜びに開くようにこの呼び声が皆

さんの心の奥に響き続いているので す。「経験ある指導者」に導かれな がら、「皆さんが自分の人生におけ る神のご計画を発見する道を歩み出 すことで、その呼び声に応えること が可能になるでしょう[2]、と教皇は 書いておられます。本稿から始まる 一連の記事はその手助けをするため に考えられました。イエスの初代の 弟子たち、教皇や聖人たちの教え、 聖ホセマリアに導かれて、この不変 の真理について深めることができる はずです。即ち、神は今も呼んでお られということ、神は「一人ひとり のために具体的なご計画をお持ちで す、それが《聖性》です」[3]。 聖 ホセマリアはわずか16歳の若さで、 自分の心が「愛から生まれる何か偉 大な事!を求め始めたことについ て、度々語っていました[4]。愛は常 に若く、常に驚かせる力を持ってい るので、私たちも、「愛から生まれ る何か偉大な事を発見したいもので す。

「その翌日、また、ヨハネは二人の 弟子と一緒にいた。そして、歩いて おられるイエスを見つめて、『見 よ、神の小羊だ』と言った。二人の 弟子はそれを聞いて、イエスに従っ た。イエスは振り返り、彼らが従っ て来るのを見て、『何を求めている のか』と言われた。彼らが、『ラビ (〈先生〉という意味) どこに泊 まっておられるのですか』と言う と、イエスは、『来なさい。そうす れば分かる』と言われた。そこで、 彼らはついて行って、どこにイエス が泊まっておられるかを見た。そし てその日は、イエスのもとに泊まっ た。午後四時ごろのことである」 (ヨハネ1、35-39)。福音書の主人 公たちが感動を隠し切れず、この一 場面を生き生きとした思い出として 語り継いだのでしょう。彼らの人生 の中の最も重要な瞬間、つまりナザ

レのイエスと初めてお会いした日だったからです。

「その翌日、また、ヨハネは二人の 弟子と一緒にいた。そして、歩いて おられるイエスを見つめて、『見 よ、神の小羊だ』と言った。二人の 弟子はそれを聞いて、イエスに従っ た。イエスは振り返り、彼らが従っ て来るのを見て、『何を求めている のか』と言われた。彼らが、『ラビ (〈先生〉という意味)どこに泊 まっておられるのですか』と言う と、イエスは、『来なさい。そうす れば分かる』と言われた。そこで、 彼らはついて行って、どこにイエス が泊まっておられるかを見た。そし てその日は、イエスのもとに泊まっ た。午後四時ごろのことである| (ヨハネ1、35-39)。福音書の主人 公たちが感動を隠し切れず、この一 場面を生き生きとした思い出として 語り継いだのでしょう。彼らの人生 の中の最も重要な瞬間、つまりナザ

レのイエスと初めてお会いした日だったからです。

私にとってイエスはどのような方で しょうか。そしてイエスにとって私 はどのような人間でしょうか。

第四福音書は若きヨハネを簡潔に紹介してくれます。彼は「イエスに愛された弟子」でした。年が経つに連れて、この確信が消えることなく、むしろ強まっていく一方でした。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛した(…)、ここに愛があります」(1ヨハネ4、10)。主が自分を愛してくださっているという確信があってこそ、幅広く多数でうんに伝えた根深い喜びを晩年ます。くいネによる福音書から溢れ出ているによる福音書から溢れ出ているによるです。全てはあの日、ダン川の辺りで始まったのです。

さて私たちの場合、あの若き弟子と 同様に、心を引き付けるような暖か みのあるこのような出会いはありま したか。私たちが幼い頃からキリス ト者であり、一生を通じて祈りをし てきたとしても、一旦足を止めて考 えるべきです。「私にとってイエ ス・キリストはいったいどのような 方ですか。今日、今、イエス・キリ ストは私の実人生においてどのよう な意味があり、どのような位置付け にありますか |。これを考察するこ とで、私たちの信仰を測ることがで きるでしょう。「しかし、この質問 より先にすべき、離し切れず、より 重要なもう一つの質問があります。 つまり、イエス・キリストにとって 私はどのような人ですかし[7]。

このような質問に対して、多少驚いてもおかしくありません。「イエス・キリストにとって私はどのような人か?私はいったい誰?ちっぽけな被造物か?進化の結果なのか?神の掟を守らなければならぬもう一人の人間に過ぎないのか?イエスが私

をどのように見ているか?…」。こ のような疑問の時、聖人たちに目を 向ければいいでしょう。ある時、聖 ヨハネ・パウロ二世が似たような質 問に対してこう答えました。「あな たは神のひとつの考え、神の心のひ とつの鼓動です。こう言うことは、 つまり、あなたには価値があり、し かもある意味で無限の価値があり、 神にとって大切な二つとない個人な のです。聖ヨハネ・パウロ二世は、 全ての聖人と同じく、神にとって私 たちがどれだけ大切な存在であるか を理解していました。私たちはちっ ぽけな被造物であっても、神のわが ままを満たすためにこの世に置かれ た僕ではなく、真の友です。わたし たちのことを心に掛け、一生を通じ てわたしたちに付き添ってくださる のです。

これは大げさに言っているのではありません。イエス様ご自身が弟子たちに次のように言われました。「友

のために自分の命を捨てること、こ れ以上に大きな愛はない。(中略) あなたがたは私の友である。(中 略) 私はあなたがたを友と呼ぶ。父 から聞いたことを全てあなたがたに 知らせたからである | (ヨハネ15、 13-15)。これは現代的な言葉で す。イエス・キリストは「生きてお られ、今あなたたちに向かっておっ しゃいます。聞き入れる心構えをし て、この声に耳を傾けてください。 あなたたち一人ひとりにおっしゃり たいことがあるのです| |9|。それで は、イエス・キリストにとって私は どのような存在ですか。私は、最大 の愛をもって愛してくださるイエス の友であり、聖心の鼓動です。イエ ス・キリストにとっては、これが私 なのです。ところで、私にとってイ エス・キリストはどのような方で しょうか。

キリストを探し求めるように!

1933年5月29日、建築学部の学生が 初めて聖ホセマリアとの霊的指導を 受けに行きました。名前はリカル ド・フェルナンデス・バリェレスピ ン。何年も経ってから彼は当時の出 会いを次のように思い出していまし た。「パドレは私の霊魂について話 してくださいました。助言などを通 して、より良い人になるようにと促 してくれました。視覚的記憶でまだ はっきりと覚えています。別れる前 に、パドレが立ち上がり、本棚に近 づいて、神父様が使っておられた本 を一冊取り出されました。そして、 最初のページに献辞として次の文章 を書いてくださったのです。『あな たがキリストを求め、キリストに出 会い、キリストを愛するように』| [10]、二人の間のあの短い会話も、 聖ホセマリアは最も重要なこと、つ まり主との個人的な出会いから始る ことを望んだのでした。

弟子ヨハネは、何を求めているか はっきりと分からないまま、キリス トを求め始めました。自分の心を満 たす何か、ということしか分かって いませんでした。永遠の命へ飢えが あったので、仕事のために、あるい は金儲けのために生きること、他の 人々と同じ生活を送ること、自分の 生まれた村の外へと目を向けない人 生、このような生き方はすべて何と なく物足りなく感じていました。落 ち着かない心を満たしたかったので す。そのために、洗礼者に付いてい きました。ちょうどその時、洗礼者 の側にいる時に、イエスが近くを通 りかかります。そして洗礼者が「こ れは神の小羊である」と示してくれ た時、ヨハネとその友人アンドレア が「それを聞いて、イエスに従っ た | のです (ヨハネ1、37)。

ヨハネとアンドレアが初めて主の後 を追った時、彼らは少しばかり恥ず かしい思いをしたかもしれません。 イエスの後を追いましたが、どなましたが、簡単を追いまか、簡単をもるべきかられた。誰かませんでした。誰かませんでした。誰かまなは神の子なれ者では、かし、て聞いているとは、からればがいる。と聞いれたがは、なが彼らればいからながは、38)と聞かれたからないがは、38)と聞かれたからないがは、38)と聞かれたからないがはよいか分からなからないません。

主は若者の心、落ち着きのない心に 感動されます。それゆえ、私たちが 主を誠実に探すなら、主ご自身が、 考えられないような造りたて私生の がまないまするいますの」 の近くに来てくださいますの」 では主との「はじめての」 といっも思い出して、様々 はたいた頃でした頃でした頃でした。 それは彼がまだ少年で、 夢や理想を心に抱いていた頃でし た。大雪が街を真っ白に包んだ日のたされると、積の日と、積に出ると、積の上にそれた裸足の上にそのではなれた思議ながれました。ではないではないではないが神とといいが神としませんがでよりにでから、僕も神と大のためにではないだろうか[13]。

その日、足跡にイエスの跡を見た少年ホセマリアはヨの後に従うことです。 を見たのでしたがしたいました。 を見たがしたいまでしたがもしたができる。 かしたがであることでは、 がなることのでは、 がなることのでいるのとのでいたである。 その後、エスのは、 見たのとった行動と似ていまりのとった行動とのとった行動といた。 す。「彼らが、『ラビ (〈先生〉と いう意味) どこに泊まっておられる のですか』と言うと、イエスは、

『来なさい。そうすれば分かる』と言われた。 (…) そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである」 (ヨハネ1、38-39)。

自分が誰かに愛されていることに気 づいた時、私を愛してくれる人のこ とをよく知りたいという強い望みが 湧いてきます。誰かが自分のために 親友のように尽くしてくれた時、そ の人がどのような人なのか知りたい と私たちは望みます。私たちのこと をいつも心に留め、私たちを待って いる方がいることに気づくこと。そ してその方は私たちの心の奥底にあ る熱望を満たす方であることに気づ くこと。これらのことは、その方を 探すよう私たちを仕向けます。神は ホセマリアがあの足跡を見ることに よって自分自身の内に〈深く根を下

ろしていた〉、ある〈神的な不安〉 に気づくようにと望まれたのです。 その結果内的な刷新が実現し、「よ りいっそう深い信仰生活営む決心す る | 「14〕ための足がかりとなりま した。イエスを探し求め、出会うこ とは「出発点」に過ぎません。友達 として付き合い始めたばかりなので す。福音書を読み、ミサに与り、聖 体拝領において主と親しく交わり、 助けを必要としている人の中におら れる主を大切にすることによって、 主をより深く知るように努めましょ う。そして友達と、喜び・悲しみ・ 将来の希望・失敗を分かち合い、そ の分かち合いにおいてイエスを他の 人に伝えるよう努めましょう。なぜ なら、結局祈るとは「主と友達のよ うに付き合うと、私達を愛している 方と頻繁に一対一で付き合うこと| [15]だからです。あの日、丸一日イ エスと共にいたヨハネとアンドレア と同じように、

あなたがイエスを愛するように!

イエスと出会ったあの日、若きろん生は変わりました。もいの人生におかりましたですれた。もいの人生におかけれた。 おいののはないののはないののはないのがあれている。 多ないのでは、からないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、生涯によりでは、また。

個人的な経験からも言えますが、友情は私たちを変えます。それゆえ、当然ながら、親は自分の子がどのような友達を持っているのかについます。気づかないうちに友情は私たちを変え、友と同じものを望み、同じものを拒むようになります。友情は

二人を緊密に結びつけるので、二つの体でひとつの魂を支えているかのようです。[16]

このような意味、あの若い使徒の変 化は際立ったものでした。彼と兄弟 ヤコブは「雷の子ら」(マルコ3、 17)と呼ばれていました。福音書を 読めば、このあだ名は大げさではな かったことが分かります。例えば、 サマリア人たちがイエスと弟子たち が宿泊することを断った時、兄弟は 先生に言いました。「主よ、お望み なら、天から火を降らせて、彼らを 焼き滅ぼしましょうか(ルカ9、 54)。しかしイエスと時間を共に し、友情を育むに従い、イエスのよ うに愛し、理解し、許すことを学ん だのです。

同じことが私たちにも言えます。イエスとの出会い、イエスとの付き合いは、私たちに変化を引き起こします。主のように愛することを学び始

めます。私達たちが主と同じ望みを 持ち始めても驚くことはありませ ん。その時は、主に感謝すべきで す。主は私たちを通して主の愛を世 界に伝えたいとお思いなのです。聖 ホセマリアにも同じことが起こりま した。あの雪の上の足跡を見て、自 分が使命を持っていることをしっか り確信したのでした。「心に愛を感 じ始めました。私の心は愛から生ま れる何か偉大なものを求め始めたの です」「17」。私達も同じです。心に 訴えるものの中にイエスの呼びかけ が聞こえてきます。「私に従いなさ い!」。

人生の全てにおいてキリストと共に 生きる

過去を振り返っても、ヨハネはイエスに従うこと以外の望見はなかったことでしょう。このように神は私たち一人ひとりに働きかけます。「イエスの崇高な愛は、私たちが偉大な

理想、より完全なものを目指すよう 駆り立てます。愛は高みを目指し、 低俗な状態に成り下がることをエスら するからです」 [18]。イエス っていでになったときエスら ったとおいでになったとやコブ ったとはじめ、ヤロ、マグイエも でして大勢の人が、の マリア、そしてられ、動かされました。

イエスは今も二千年前と同じように 私たちと共におられます。それどこ ろか、イエスは当時よりさらに私た ちの近くにおられます。私たちひと り一人の内に生きることがおできに なるからです。私たちは、イエスが 御父から授かった使命を共にはたす というよりは、むしろは私たち一人 ひとりの生き方を通して、私たちひ とり一人の中から、愛したいとお望 みなのです。憎悪を愛に、利己主義 を奉仕に、諍いを許しに変えるた め、世界が主と和解するため、イエ

スは私達を通して働きたいとお望みなのです。だから、私たちにおっしゃいます。「私の愛にとどまりなさい」(ヨハネ15、9)と。

主の愛を発見したあの若い使徒は、 十字架においても主の元を離れませ んでした。その後、他の使徒たちと 共にその人生の全てを決定づける使 命が与えられます。「全世界に行っ て、全ての造られたものに福音を宣 べ伝えなさい (マルコ16、15)。 私 たちも不安な心の声に耳を傾けるな ら、イエスを探すなら、主と出会い 主に従うなら、主の友であるなら、 主が私たちの協力を期待されている ことに気づくでしょう。一人ひとり にできる形で、教会の中で主の手助 けをするようにと招かれることで しょう。真の友として私たちを愛し てくださっているので、心に火を灯 して夢中にさせるプロジェクトを共 に実しようと提案なさるのです。 「今日、道である御方イエスはあな

たが歴史に跡を残す人物となるようにあなたに呼びかけています。の人のまる御方は、あなたと多くのようでを残する跡を残すといます。直接なたに勧めてくださいます。真美である御方は、あなたが個人をおいるは、分断、無意味な人生から離れるようにあなたを招いています。あなたも一緒に挑戦してみませんか」[19]。

Borja Armada

[1] 教皇フランシスコの若者への手 紙 世界代表司教会議(シノドス)第15 回通常総会準備文書発表に際して (2017 年 1 月 13 日)

[2] 同

[3] F. オカリス、2018年8月5日アルゼンチンでの若者との集いのメモ

- [4] A. バスケス・デ・プラダ、オプ ス・デイの創立者、vol. I, p. 97.
- [5] ベネディクト16世、2005年12月 25日回勅『神は愛』1
- [6] 教皇フランシスコ、2013年11月 24日使徒的勧告『福音の喜び』n. 3.
- [7] AGP, Biblioteca, P03, 2017, p. 146.
- [8] 聖ヨハネ・パウロ2世、2001年11 月23日カザフスタンの若者への演説
- [9] ベネディクト16世、2006年8月2 日一般謁見
- [10] Camino, edición críticohistórica, comentario al n. 382.
- [11] 『知識の香』1番
- [12] 『神の朋友』300番

[13] A. バスケス・デ・プラダ、オプス・デイの創立者、vol. l. p. 96.

[14] 同

[15] イエスの聖テレジア『イエズスの聖テレジア自叙伝』8,2

[16] San Gregorio Nacianceno, Sermón 43.

[17] A. バスケス・デ・プラダ、オプス・デイの創立者、vol. I, p. 97

[18] トマス・ア・ケンピス、『キリストに倣いて』(イミタツィオ・クリスティ)III. 5

[19] 教皇フランシスコ、2016年7月 30日 WYD(ワールドユースデー) クラクフ大会、祈りの前夜祭 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesudemukaeni-kite/ (2025/12/12)